

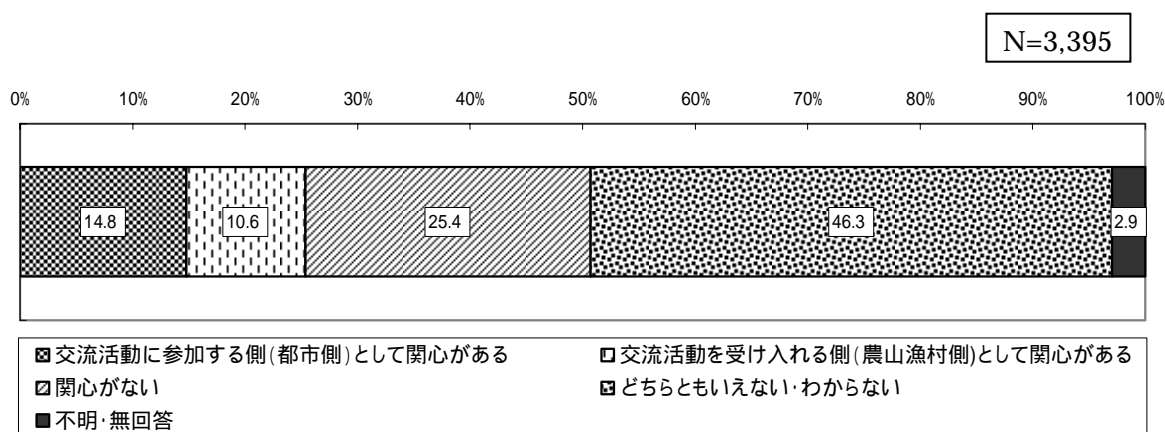
8 . 都市と農山村などの地方との交流や移住

(1) 都市と農山村などの地方との交流活動

交流活動への関心度

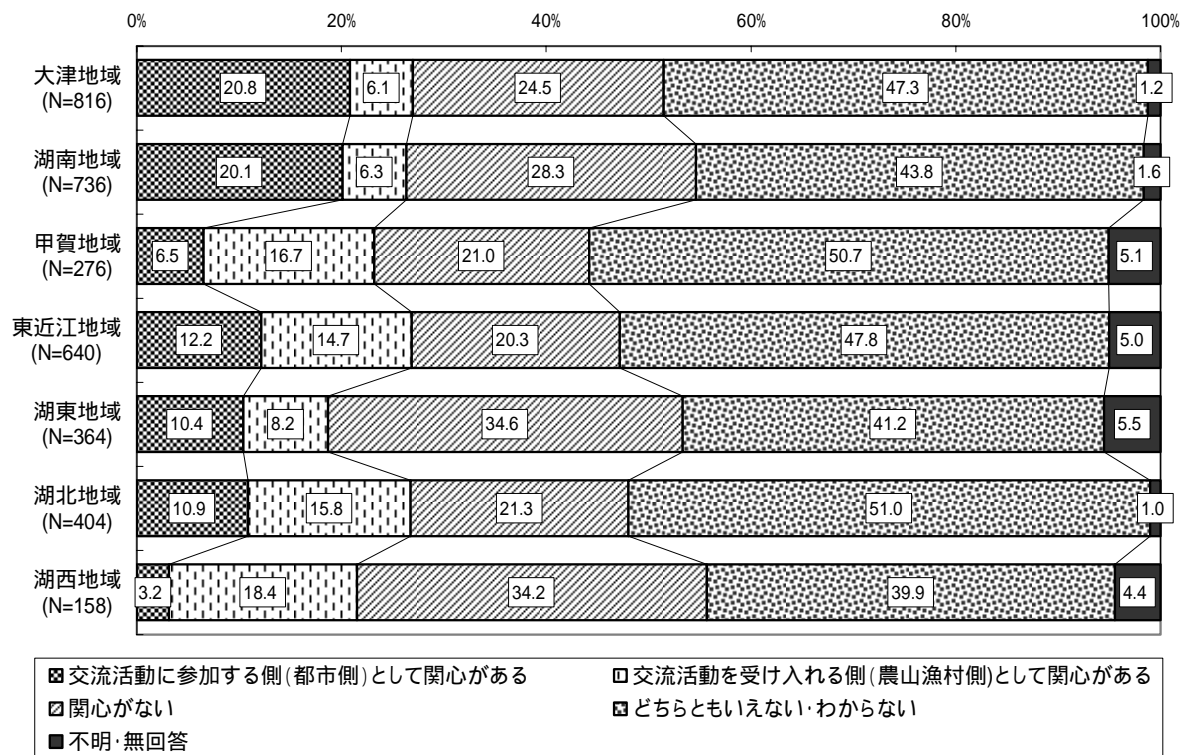
問 30 都市部に住んでいる方の中で、近年、健康や自然志向の高まりから、あるいは「ゆとり」や「やすらぎ」を求め、農山村などの地方との交流や移住に対する関心が高まっています。また、滋賀県では交流や移住を通じた、農山村地域の振興を進めています。あなたは、都市と農山村などの地方との交流活動に関心がありますか。(は1つだけ)

都市と農山村などの地方との交流活動への関心は「どちらともいえない・わからない」が46.3%
都市と農山村などの地方との交流活動への関心については、「どちらともいえない・わからない」が最も多く46.3%、以下「関心がない」が25.4%、「交流活動に参加する側(都市側)として関心がある」が14.8%と続く。『関心度』(「交流活動に参加する側(都市側)として関心がある」と「交流活動を受け入れる側(農山漁村側)として関心がある」の合計)は25.3%となっている。



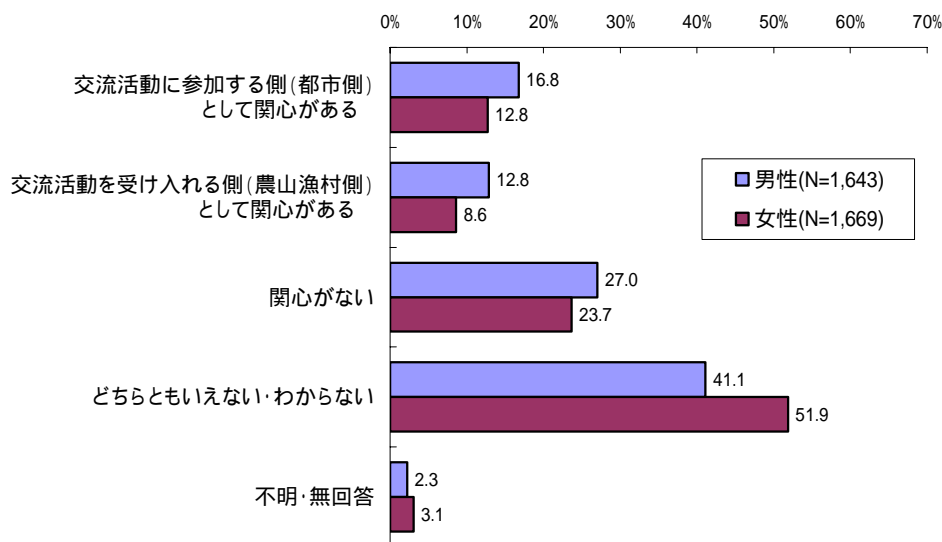
【地域別】

いずれの地域においても「どちらともいえない・わからない」が最も多くなっている。「交流活動に参加する側(都市側)として関心がある」では、大津・湖南地域が他の地域に比べ高く2割を超えている。一方「交流活動を受け入れる側(農山漁村側)として関心がある」では湖西地域が18.4%、次いで甲賀地域が16.7%となっている。



【性別】

男女ともに「どちらともいえない・わからない」が最も多くなっており、女性が51.9%、男性が41.1%と、女性の方が男性に比べ10.8ポイント上回っている。また、「都市側として関心がある」と「農山漁村側として関心がある」ではいずれも男性のほうの割合が高くなっている。



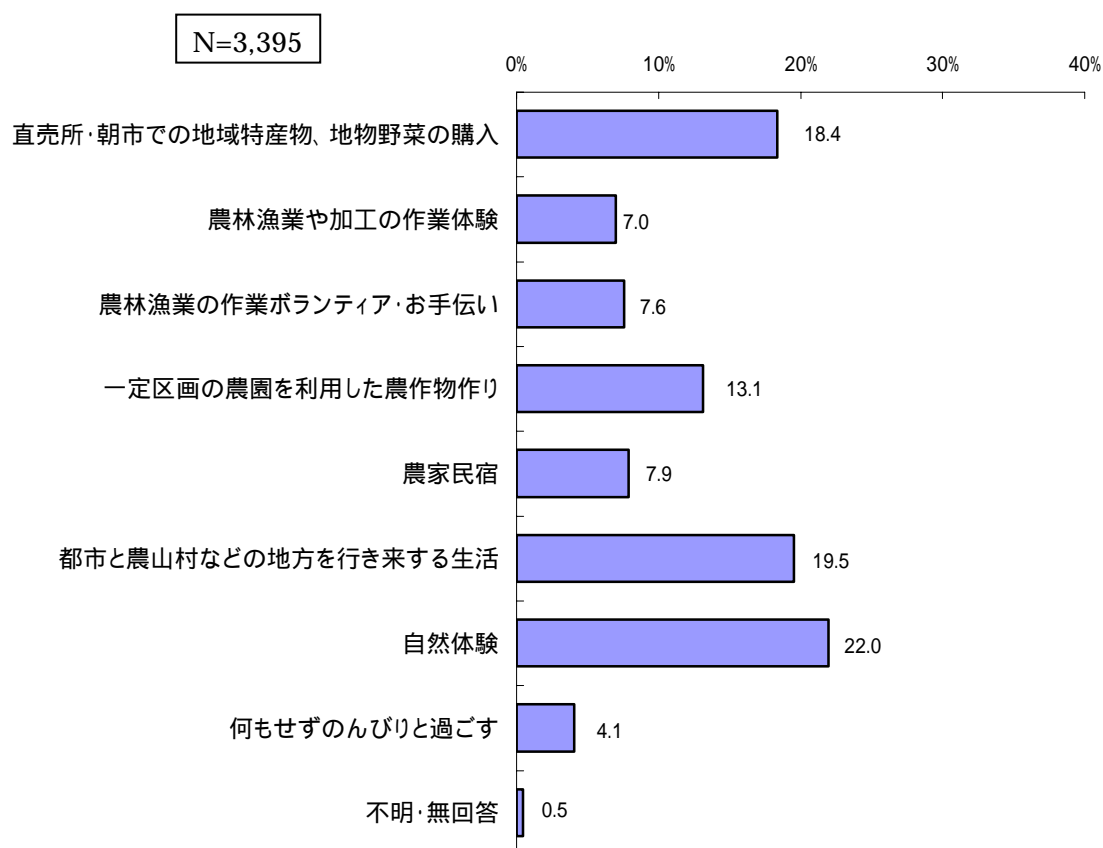
【性・年代別】

「どちらともいえない・わからない」では男性が40歳代で46.3%、女性が20歳代で6割を超えており、それぞれ他の年代に比べ高い割合となっている。「交流活動を受け入れる側（農山漁村側）として関心がある」では男性の20歳代と70歳以上が2割を超えている。また、「農山漁村側として関心がある」では、女性の年代が高くなるにつれ、割合も高くなる傾向となっている。

交流活動における関心のある取り組み

付問1 問30で「1」または「2」と回答された方におたずねします。交流活動の中で、あなたが一番関心の高い取り組みを1つ選んでください。

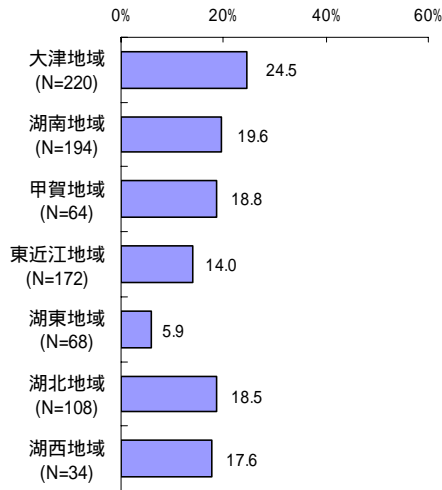
都市と農山村などの地方との交流活動の中で、一番関心の高い取り組みは「自然体験」が22.0%。都市と農山村などの地方との交流活動の中で、一番関心の高い取り組みについては、「自然体験」が最も多く22.0%、次いで「都市と農山村などの地方を往来する生活」が19.5%、「直売所・朝市での地域特産物、地物野菜の購入」が18.4%となっている。



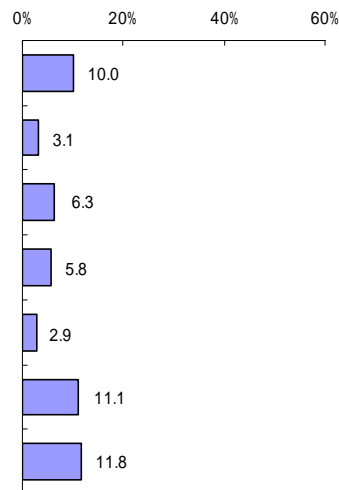
【地域別】

湖南・湖北・湖西地域では「自然体験」が、甲賀・東近江地域では「都市と農山村などの地方を往来する生活」が、大津地域では「直売所・朝市での地域特産物、地物野菜の購入」が最も多い。また、湖東地域では「一定区画の農園を利用した農作物作り」と「都市と農山村などの地方を往来する生活」とが同率で最も多くなっている。

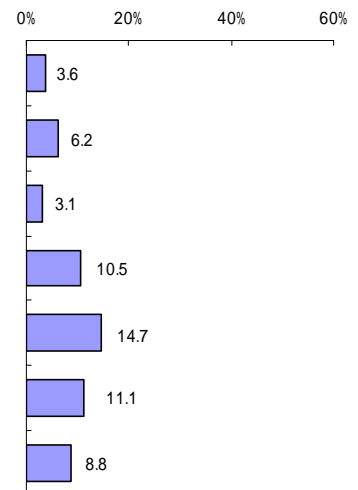
直売所・朝市での地域特産物、地物野菜の購入



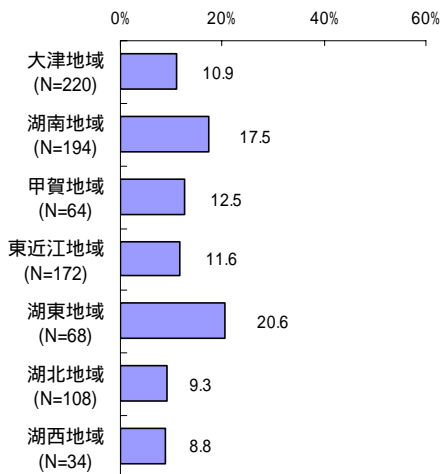
農林漁業や加工の作業体験



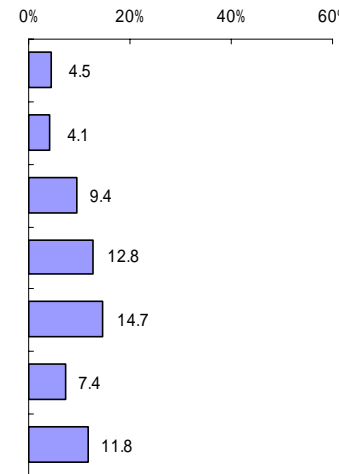
農林漁業の作業ボランティア・お手伝い



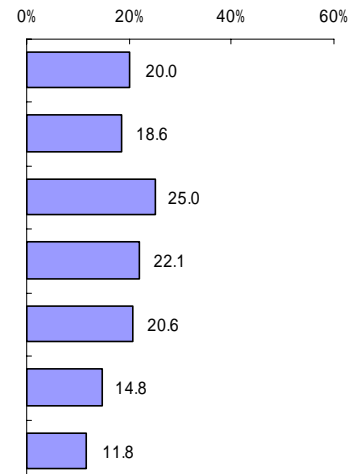
一定区画の農園を利用した農作物作り



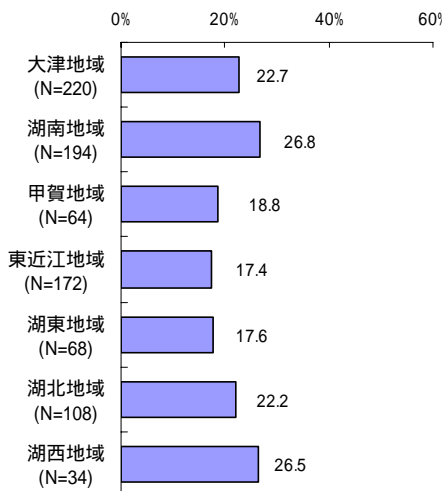
農家民宿



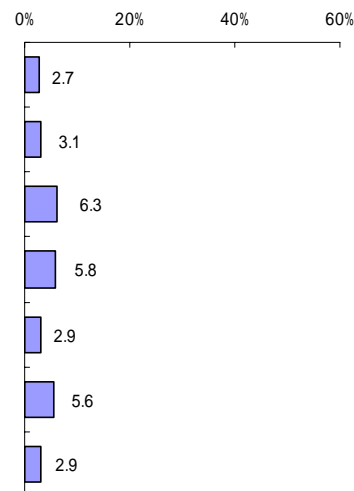
都市と農山村などの地方を行き来する生活



自然体験

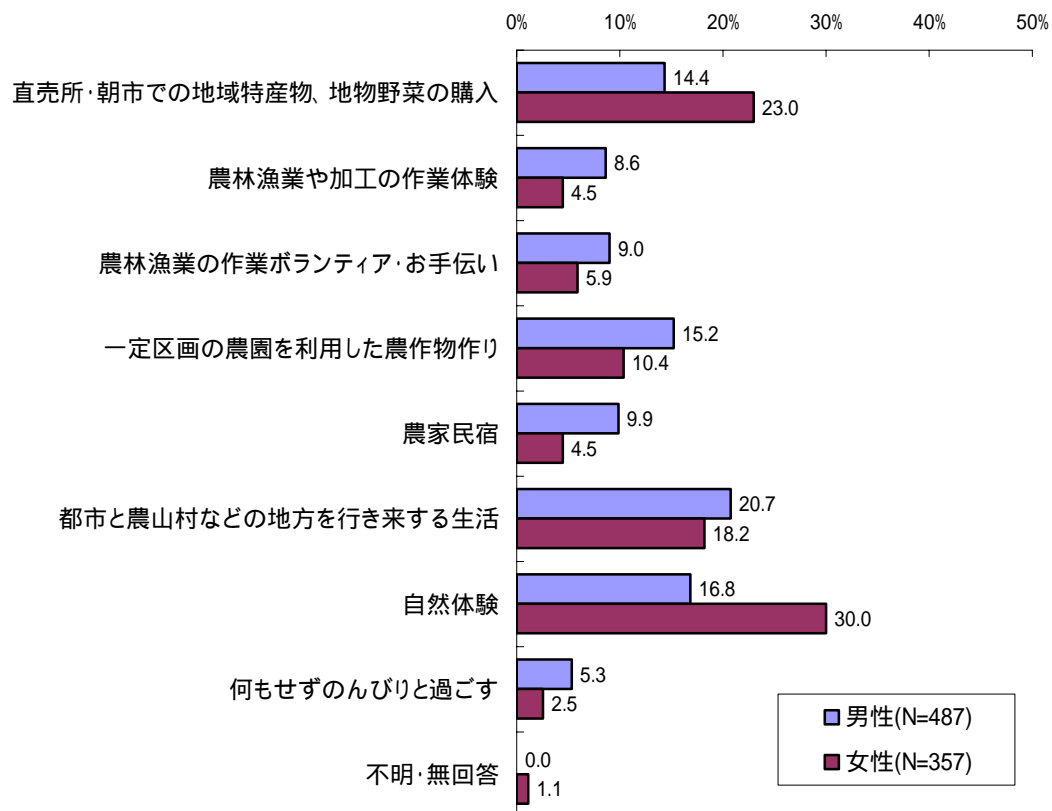


何もせずのんびりと過ごす



【性別】

女性で最も多いのは「自然体験」で、男性より 13.2 ポイント高く、次いで「直売所・朝市での地域特産物、地物野菜の購入」、「都市と農山村などの地方を行き来する生活」となっている。男性は「都市と農山村などの地方を行き来する生活」、「自然体験」、「一定区画の農園を利用した農作物作り」の順になっている。



【性・年代別】

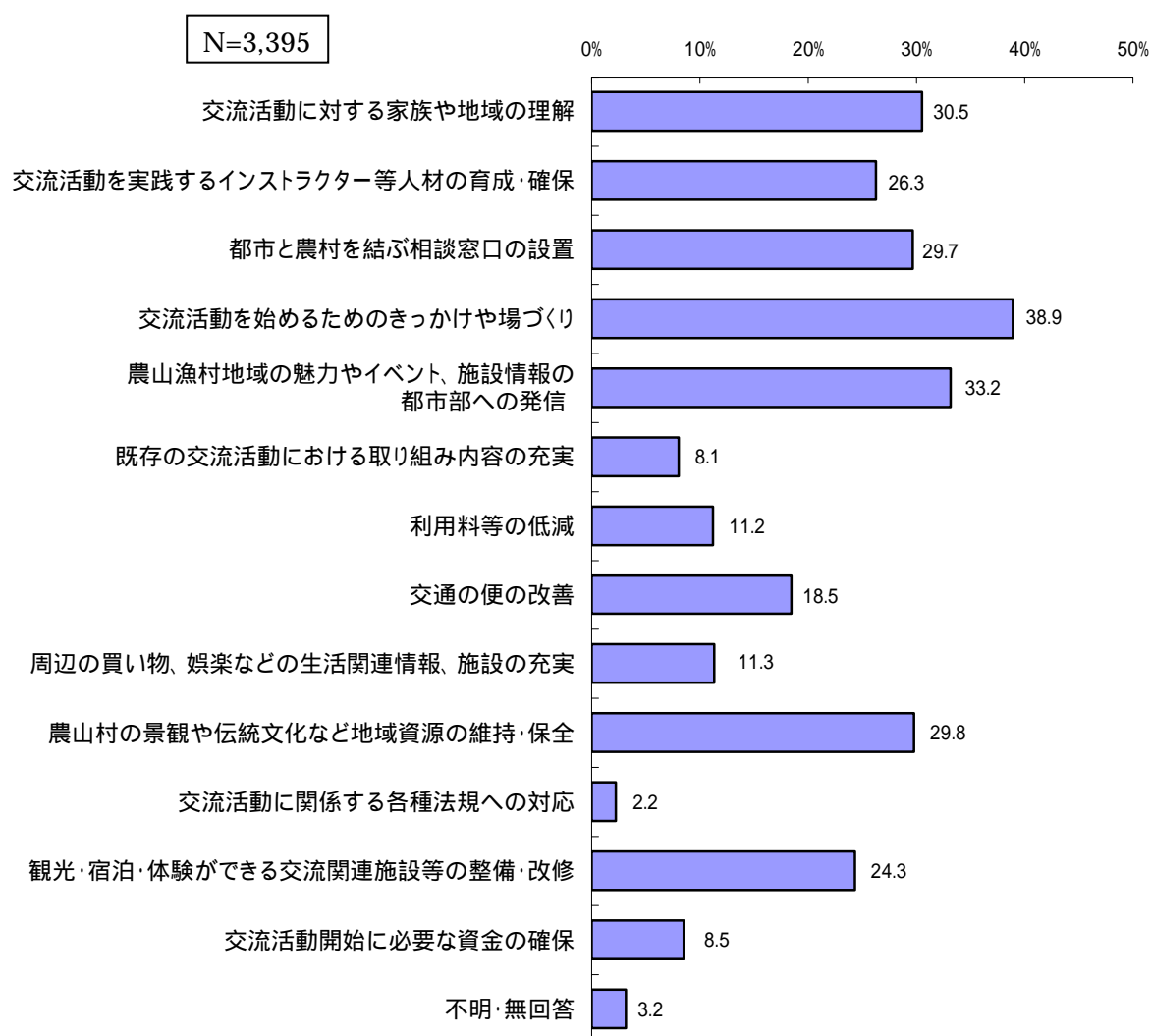
「農林漁業や加工の作業体験」は男女ともに 20 歳代が最も多い。「自然体験」は女性の 20～40 歳代、「都市と農山村などの地方を行き来する生活」は男性の 40～60 歳代と女性の 50 歳代で多くなっている。

取り組みにおいて重要視するもの

付問2 付問1で選んだ取り組みを実施するのに重要だと思われる事柄は何ですか。この中から3つ選んでください。

都市と農山村などの地方との交流活動の取り組みを実施するのに重要だと思う事柄は、「交流活動始めるためのきっかけや場づくり」が38.9%

都市と農山村などの地方との交流活動の取り組みを実施するのに重要だと思う事柄については、「交流活動始めるためのきっかけや場づくり」が最も多く38.9%、以下「農山漁村地域の魅力やイベント、施設情報の都市部への発信」が33.2%、「交流活動に対する家族や地域の理解」が30.5%と続いている。



【地域別】

東近江地域を除くすべての地域で「交流活動始めるためのきっかけや場づくり」が1位となっている。東近江地域では「都市と農村を結ぶ相談窓口の設置」が1位となっている。また、湖東地域では3位が「交流活動を実践するインストラクター等人材の育成・確保」、湖西地域では2位が「観光・宿泊・体験ができる交流関連施設等の整備・改修」となっている。

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
大津地域 (N = 816)	交流活動を始めるためのきっかけや場づくり	農山漁村地域の魅力やイベント、施設情報の都市部への発信	農山村の景観や伝統文化など地域資源の維持・保全	交流活動に対する家族や地域の理解	観光・宿泊・体験ができる交流関連施設等の整備・改修
	40.4%	39.4%	34.9%	31.2%	27.5%
湖南地域 (N = 736)	交流活動を始めるためのきっかけや場づくり	農山漁村地域の魅力やイベント、施設情報の都市部への発信	都市と農村を結ぶ相談窓口の設置	交流活動を実践するインストラクター等人材の育成・確保	交流活動に対する家族や地域の理解
	45.8%	36.5%	31.3%	30.2%	27.1%
甲賀地域 (N = 276)	交流活動を始めるためのきっかけや場づくり	交流活動に対する家族や地域の理解	都市と農村を結ぶ相談窓口の設置	農山村の景観や伝統文化など地域資源の維持・保全	交流活動を実践するインストラクター等人材の育成・確保
	40.6%	37.5%	31.3%	25.0%	21.9%
東近江地域 (N = 640)	都市と農村を結ぶ相談窓口の設置	交流活動を始めるためのきっかけや場づくり	農山村の景観や伝統文化など地域資源の維持・保全	交流活動を実践するインストラクター等人材の育成・確保	交流活動に対する家族や地域の理解
	40.7%	32.6%	32.6%	26.7%	25.6%
湖東地域 (N = 364)	交流活動に対する家族や地域の理解	交流活動を始めるためのきっかけや場づくり	交流活動を実践するインストラクター等人材の育成・確保	農山漁村地域の魅力やイベント、施設情報の都市部への発信	都市と農村を結ぶ相談窓口の設置
	35.3%	35.3%	32.4%	29.4%	26.5%
湖北地域 (N = 404)	交流活動に対する家族や地域の理解	交流活動を始めるためのきっかけや場づくり	農山漁村地域の魅力やイベント、施設情報の都市部への発信	都市と農村を結ぶ相談窓口の設置	農山村の景観や伝統文化など地域資源の維持・保全
	35.2%	35.2%	35.2%	27.8%	25.9%
湖西地域 (N = 158)	交流活動を始めるためのきっかけや場づくり	農山漁村地域の魅力やイベント、施設情報の都市部への発信	観光・宿泊・体験ができる交流関連施設等の整備・改修	交流活動に対する家族や地域の理解	交流活動を実践するインストラクター等人材の育成・確保
	38.2%	35.3%	35.3%	32.4%	32.4%

【性別】

男女ともに最も多いのが「交流活動を始めるためのきっかけや場づくり」であり、2位に男性では「農山漁村地域の魅力やイベント、施設情報の都市部への発信」、女性では「交流活動に対する家族や地域の理解」となっている。

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
男性 (N=1,643)	交流活動を始めるためのきっかけや場づくり	農山漁村地域の魅力やイベント、施設情報の都市部への発信	農山村の景観や伝統文化など地域資源の維持・保全	都市と農村を結ぶ相談窓口の設置	交流活動に対する家族や地域の理解
	38.0	36.3	29.6	29.4	28.7
女性 (N=1,669)	交流活動を始めるためのきっかけや場づくり	交流活動に対する家族や地域の理解	農山村の景観や伝統文化など地域資源の維持・保全	都市と農村を結ぶ相談窓口の設置	農山漁村地域の魅力やイベント、施設情報の都市部への発信
	39.1	33.1	30.9	30.3	29.2

【性・年代別】

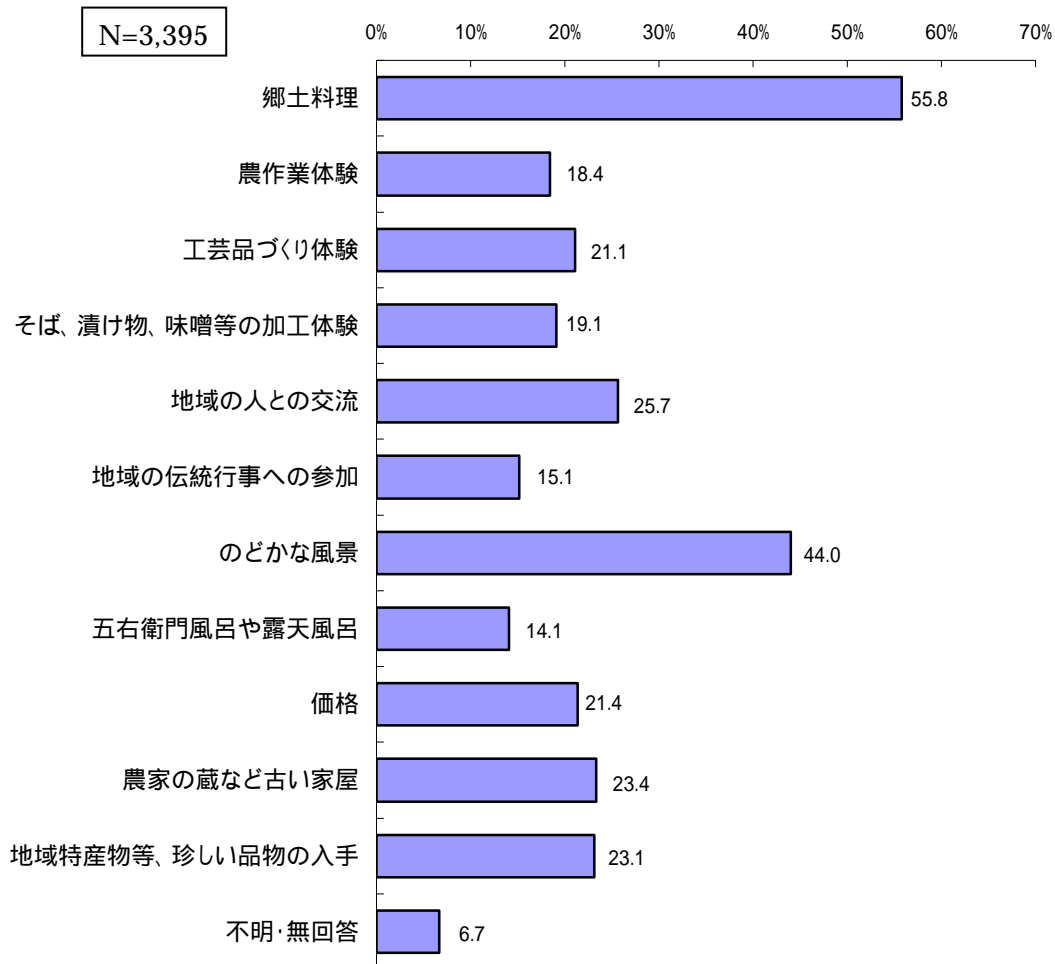
「交流活動を始めるためのきっかけや場づくり」が最も多いのは女性の30歳代である。「都市と農村を結ぶ相談窓口の設置」は男女ともに70歳以上が最も多い。

(2) 農家民宿

問 31 あなたが農家民宿に泊まるとしたら、どの様な条件を重要視しますか。(はいいくつでも)

農家民宿の重視する条件は、「郷土料理」が 55.8%

農家民宿の重視する条件については、「郷土料理」が最も多く 55.8%、次いで「のどかな風景」が 44.0%、「地域の人との交流」が 25.7%となっている。



【地域別】

いずれの地域においても1位は「郷土料理」、2位は「のどかな風景」となっている。3位には大津地域では「価格」、湖南・甲賀・東近江・湖東地域では「地域の人との交流」、湖北・湖西地域では「農家の蔵など古い家屋」となっている。

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
大津地域 (N = 816)	郷土料理	のどかな風景	価格	農家の蔵など古い家屋	地域の人との交流 / 地域特産物等、珍しい品物の入手
	53.7%	50.2%	27.2%	25.2%	24.5%
湖南地域 (N = 736)	郷土料理	のどかな風景	地域の人との交流	工芸品づくり体験 / 農家の蔵など古い家屋	
	60.3%	48.1%	27.4%		24.7%
甲賀地域 (N = 276)	郷土料理	のどかな風景	地域の人との交流	工芸品づくり体験 / そば、漬け物、味噌等の加工体験	
	57.2%	35.5%	23.9%		21.7%
東近江地域 (N = 640)	郷土料理	のどかな風景	地域の人との交流	地域特産物等、珍しい品物の入手	農家の蔵など古い家屋
	50.9%	42.8%	26.3%	25.0%	20.6%
湖東地域 (N = 364)	郷土料理	のどかな風景	地域の人との交流	工芸品づくり体験	農家の蔵など古い家屋
	57.7%	41.8%	27.5%	24.2%	21.4%
湖北地域 (N = 404)	郷土料理	のどかな風景	農家の蔵など古い家屋	地域の人との交流	価格 / 地域特産物等、珍しい品物の入手
	56.9%	35.6%	24.3%	23.8%	21.3%
湖西地域 (N = 158)	郷土料理	のどかな風景	農家の蔵など古い家屋	地域の人との交流	農作業体験 / 価格 / 地域特産物等、珍しい品物の入手
	55.7%	39.9%	25.9%	24.7%	20.9%

【性別】

男女とも1位は「郷土料理」、2位は「のどかな風景」、3位は「地域の人との交流」の順となっている。1位の「郷土料理」は、女性が男性より5.8ポイント高くなっている。

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
男性 (N=1,643)	郷土料理	のどかな風景	地域の人との交流	農家の蔵など古い家屋	地域特産物等、珍しい品物の入手
	53.0%	42.4%	27.1%	23.2%	22.5%
女性 (N=1,669)	郷土料理	のどかな風景	地域の人との交流	地域特産物等、珍しい品物の入手	農家の蔵など古い家屋
	58.8%	45.7%	24.2%	23.8%	23.6%

【性・年代別】

男女ともに30歳以上では「郷土料理」が、男性の20歳代では「のどかな風景」が最も多い。また女性の20歳代では、「郷土料理」と「のどかな風景」が同率で最も多くなっている。「地域の人との交流」は男性の70歳代が最も多い。

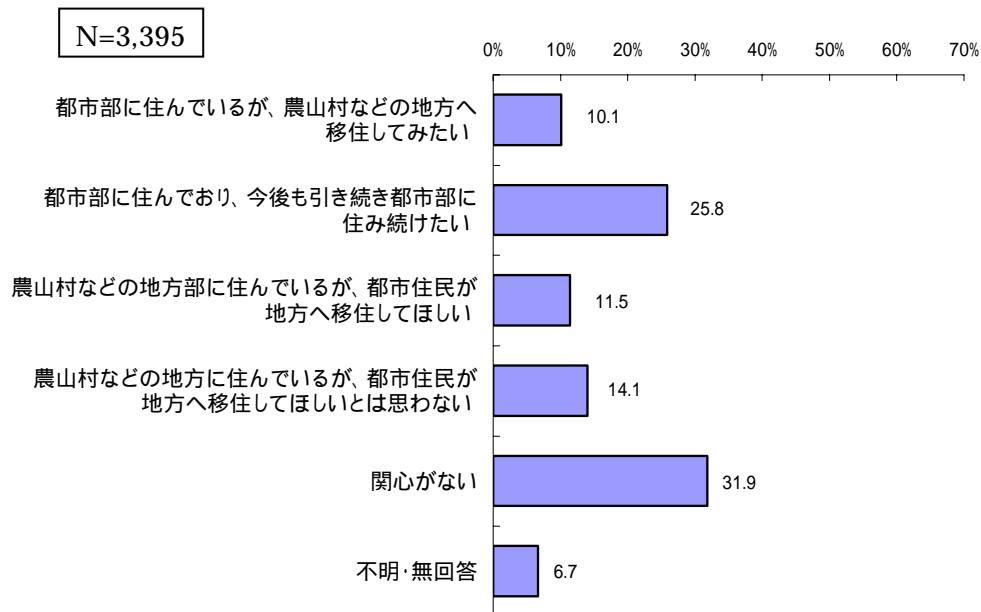
(3) 都市から農山村などの地方への移住

移住についての考え

問 32 あなたは、都市から農山村などの地方への移住についてどのようにお考えですか。
(は1つだけ)

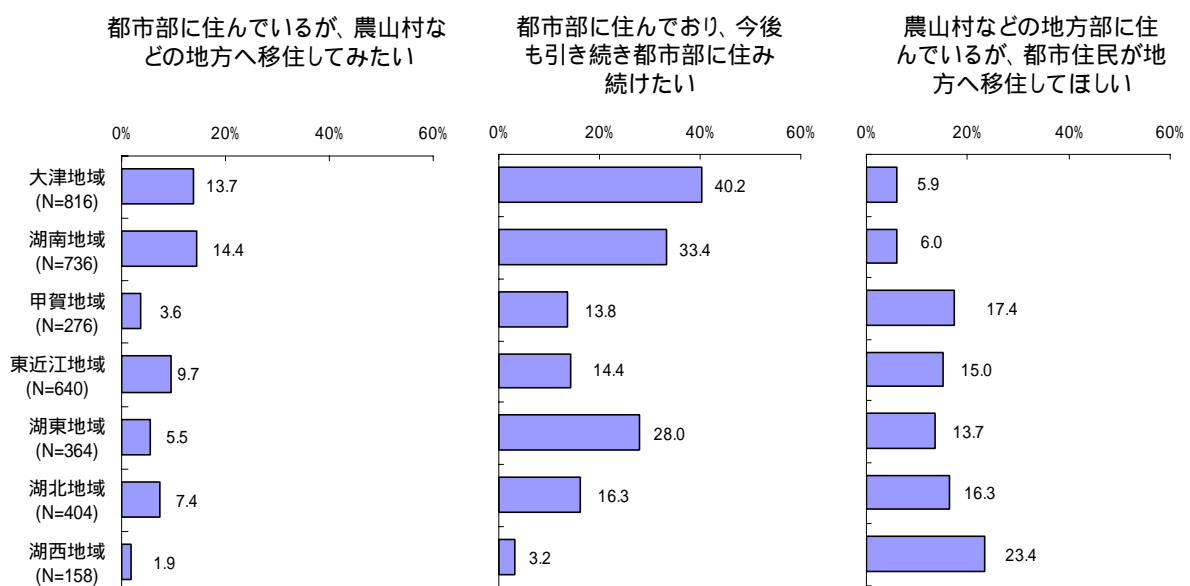
都市から農山村などの地方への移住については、「関心がない」が31.9%

都市から農山村などの地方への移住については、「関心がない」が最も多く31.9%、次いで「都市部に住んでおり、今後も引き続き都市部に住み続けたい」が25.8%、「農山村などの地方に住んでいるが、都市住民が地方へ移住してほしい」とは思わない」が14.1%となっている。



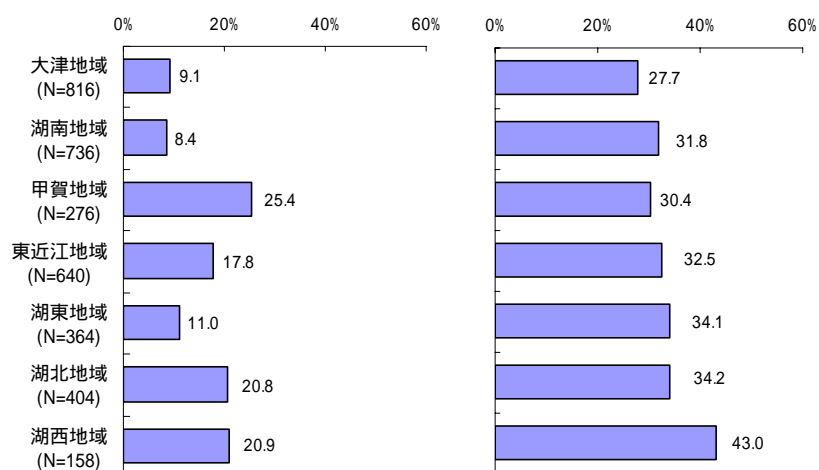
【地域別】

大津・湖南地域では「都市部に住んでおり、今後も引き続き都市部に住み続けたい」が最も多く、その他の地域では「関心がない」が最も多い。また、甲賀地域では「農山村などの地方に住んでいるが、都市住民が地方へ移住してほしいとは思わない」、湖西地域では「農山村などの地方部に住んでいるが、都市住民が地方へ移住してほしい」がそれぞれ2番目に多くなっている。



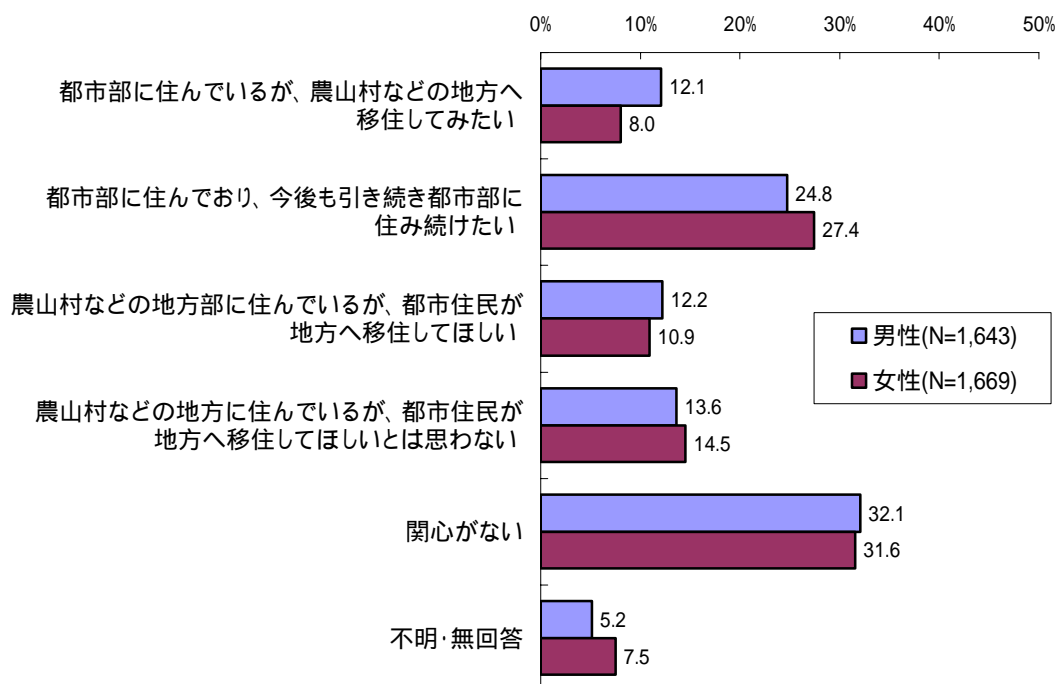
農山村などの地方に住んでいるが、都市住民が地方へ移住してほしいとは思わない

関心がない



【性別】

男女ともに「関心がない」が最も多く、以下「都市部に住んでおり、今後も引き続き都市部に住み続けたい」、「農山村などの地方に住んでいるが、都市住民が地方へ移住してほしいとは思わない」と続いている。また男性は「都市部に住んでいるが、農山村などの地方へ移住してみたい」が女性より 4.1 ポイント高くなっている。



【性・年代別】

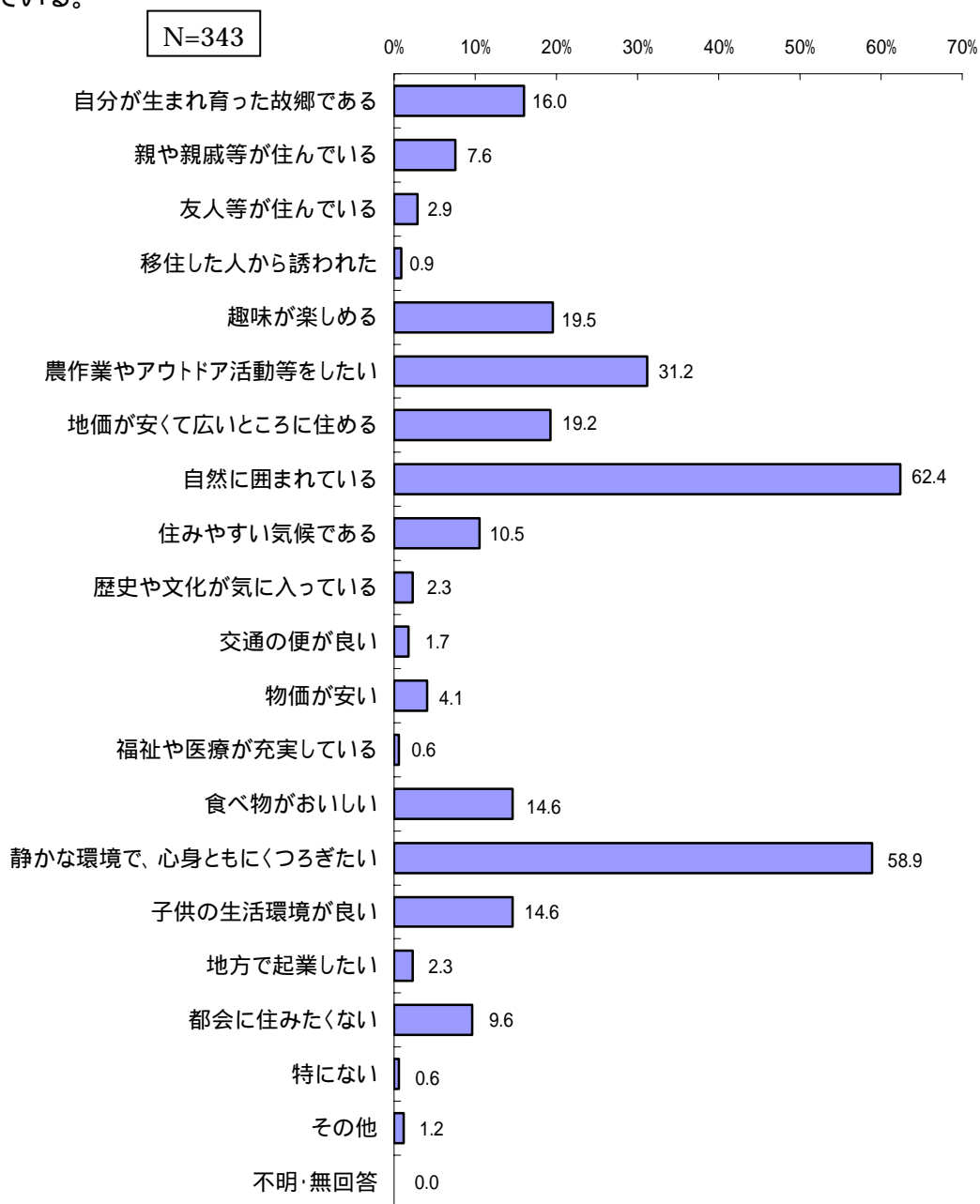
男性の 20～60 歳代、女性の 20～50 歳代、70 歳以上で「関心がない」が最も多くなっており、男女ともに年代が上がるにつれて、割合は低くなる傾向がある。男性の 70 歳以上、女性の 60 歳代では「都市部に住んでおり、今後も引き続き都市部に住み続けたい」が最も多くなっている。

農山村などの地方移住希望の理由

付問1 問32で「1 都市部に住んでいるが、農山村などの地方へ移住してみたい」と回答された方におたずねします。地方へ移住したい理由は何ですか。この中から3つまで選んでください。

地方へ移住したい理由は、「自然に囲まれている」が62.4%

地方へ移住したい理由は、「自然に囲まれている」が62.4%と最も多く、次いで「静かな環境で、心身ともにくつろぎたい」が58.9%、「農作業やアウトドア活動等をしたい」が31.2%となっている。



【地域別】

ほとんどの地域で「自然に囲まれている」もしくは「静かな環境で、心身ともにくつろぎたい」が上位に入っている。また、湖西地域では「地価が安くて広いところに住める」が1位となっている。

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
大津地域 (N=112)	自然に囲まれている	静かな環境で、心身ともにくつろぎたい	農作業やアウトドア活動等をしたい	地価が安くて広いところに住める	子供の生活環境が良い
	64.3%	50.0%	33.9%	23.2%	19.6%
湖南地域 (N=106)	静かな環境で、心身ともにくつろぎたい	自然に囲まれている	農作業やアウトドア活動等をしたい	趣味が楽しめる / 食べ物がおいしい	
	71.7%	62.3%	37.7%	18.9%	
甲賀地域 (N=10)	静かな環境で、心身ともにくつろぎたい	趣味が楽しめる / 農作業やアウトドア活動等をしたい / 自然に囲まれている		自分が生まれ育った故郷である / 地価が安くて広いところに住める	
	60.0%	40.0%		20.0%	
東近江地域 (N=62)	自然に囲まれている	静かな環境で、心身ともにくつろぎたい	農作業やアウトドア活動等をしたい	地価が安くて広いところに住める	自分が生まれ育った故郷である / 都会に住みたくない
	67.7%	51.6%	25.8%	22.6%	19.4%
湖東地域 (N=20)	自然に囲まれている	静かな環境で、心身ともにくつろぎたい	食べ物がおいしい	子供の生活環境が良い	趣味が楽しめる / 農作業やアウトドア活動等をしたい
	70.0%	50.0%	40.0%	30.0%	20.0%
湖北地域 (N=30)	静かな環境で、心身ともにくつろぎたい	自然に囲まれている	自分が生まれ育った故郷である / 趣味が楽しめる	農作業やアウトドア活動等をしたい / 子供の生活環境が良い	
	66.7%	53.3%	33.3%		13.3%
湖西地域 (N=3)	地価が安くて広いところに住める / 静かな環境で、心身ともにくつろぎたい	自分が生まれ育った故郷である / 移住した人から誘われた / 趣味が楽しめる / 農作業やアウトドア活動等をしたい / 都会に住みたくない			
	66.7%		33.3%		

【性別】

男女ともに「自然に囲まれている」と「静かな環境で、心身ともにくつろぎたい」、「農作業やアウトドア活動等をしたい」が上位3位に入っている。女性では1位の「自然に囲まれている」が7割を超えている。

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
男性 (N=199)	静かな環境で、心身ともにくつろぎたい	自然に囲まれている	農作業やアウトドア活動等をしたい	地価が安くて広いところに住める	趣味が楽しめる
	61.3%	56.3%	31.7%	20.1%	19.6%
女性 (N=134)	自然に囲まれている	静かな環境で、心身ともにくつろぎたい	農作業やアウトドア活動等をしたい	趣味が楽しめる / 地価が安くて広いところに住める	
	70.1%	56.7%	29.9%	17.9%	

【性・年代別】

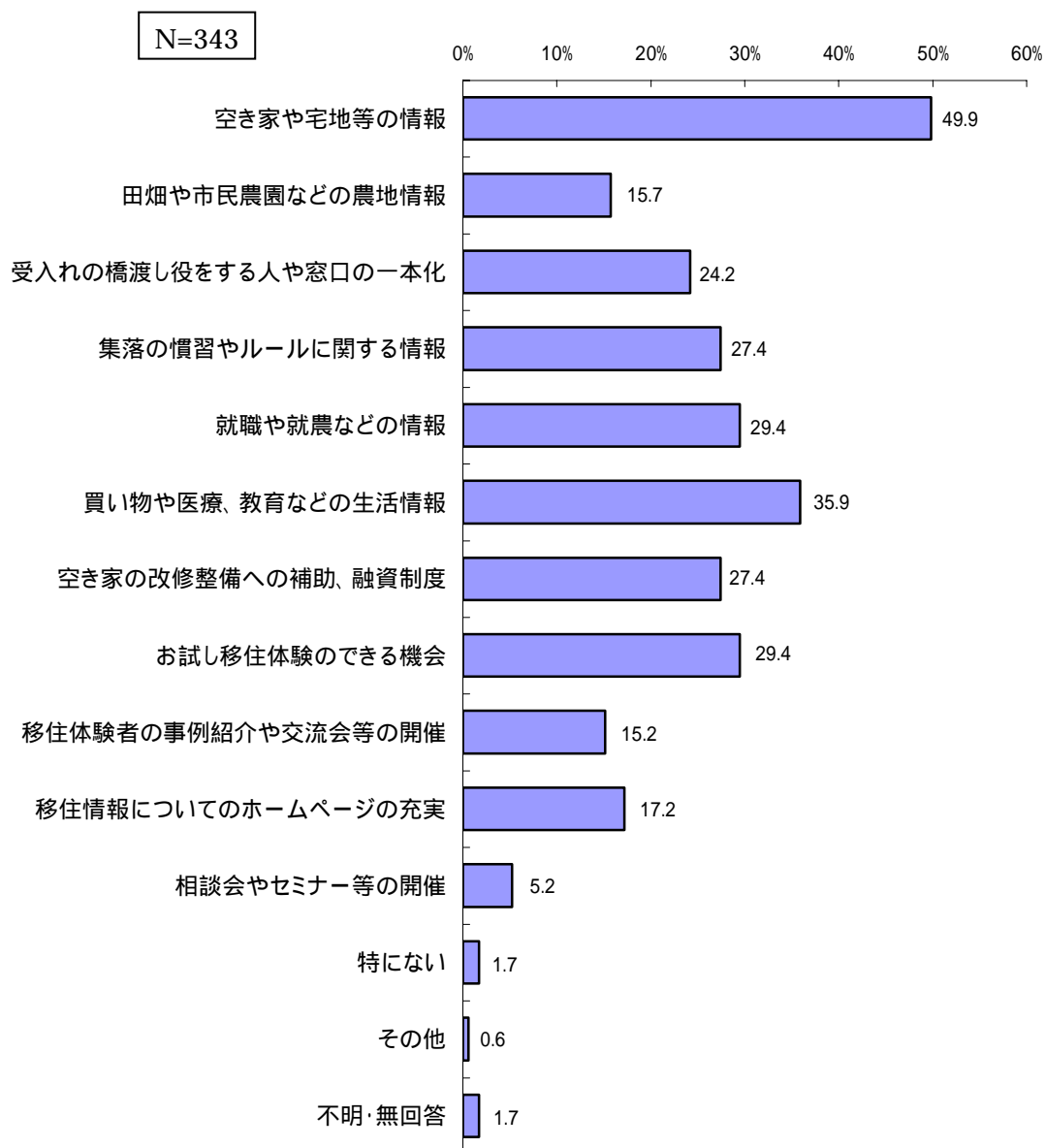
「自然に囲まれている」、「趣味が楽しめる」、「自分が生まれ育った故郷である」の3項目で女性の60歳代が最も多い。「農作業やアウトドア活動等をしたい」は男性の60歳代が最も多い。

農山村などの地方移住において必要なことから

付問2 問32で「1 都市部に住んでいるが、農山村などの地方へ移住してみたい」と回答された方におたずねします。地方への移住を実現するうえで、必要なことは何だとお考えですか。この中から3つまで選んでください。

地方への移住を実現するうえで、必要なことは「空き家や宅地等の情報」が49.9%

地方への移住を実現するうえで、必要なことは「空き家や宅地等の情報」が最も多く49.9%、次いで、「買い物や医療、教育などの生活情報」が35.9%、「就職や就農などの情報」と「お試し移住体験のできる機会」が29.4%となっている。



【地域別】

大津・湖南・甲賀・東近江・湖東地域では「空き家や宅地等の情報」が1位で、湖北地域では「お試し移住体験のできる機会」、湖西地域では「集落の慣習やルールに関する情報」がそれぞれ1位となっている。

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
大津地域 (N=112)	空き家や宅地等の情報 / 買い物や医療、教育などの生活情報		就職や就農などの情報	集落の慣習やルールに関する情報	お試し移住体験のできる機会
		50.0%	30.4%	23.2%	21.4%
湖南地域 (N=106)	空き家や宅地等の情報	集落の慣習やルールに関する情報 / 就職や就農などの情報		受入れの橋渡し役をする人や窓口の一本化 / お試し移住体験のできる機会	
		50.9%	34.0%		32.1%
甲賀地域 (N=10)	空き家や宅地等の情報 / 買い物や医療、教育などの生活情報		受入れの橋渡し役をする人や窓口の一本化 / 集落の慣習やルールに関する情報 / 空き家の改修整備への補助、融資制度		
		60.0%			40.0%
東近江地域 (N=62)	空き家や宅地等の情報	空き家の改修整備への補助、融資制度	就職や就農などの情報	買い物や医療、教育などの生活情報 / お試し移住体験のできる機会	
		61.3%	35.5%	32.3%	
湖東地域 (N=20)	空き家や宅地等の情報 / 買い物や医療、教育などの生活情報 / 空き家の改修整備への補助、融資制度 / お試し移住体験のできる機会 /				受入れの橋渡し役をする人や窓口の一本化 / 移住情報についてのホームページの充実
					40.0%
湖北地域 (N=30)	お試し移住体験のできる機会	空き家の改修整備への補助、融資制度	集落の慣習やルールに関する情報	空き家や宅地等の情報 / 田畑や市民農園などの農地情報 / 移住体験者の事例紹介や交流会等の開催	
		53.3%	40.0%	33.3%	
湖西地域 (N=3)	集落の慣習やルールに関する情報	空き家や宅地等の情報 / 受入れの橋渡し役をする人や窓口の一本化 / 就職や就農などの情報 / 買い物や医療、教育などの生活情報 / お試し移住体験のできる機会 / 移住情報についてのホームページの充実			
		66.7%			

【性別】

1位が男性は「空き家や宅地等の情報」、女性は「買い物や医療、教育などの生活情報」、2位が男性は「お試し移住体験のできる機会」、女性は「空き家や宅地等の情報」となっている。

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
男性 (N=199)	空き家や宅地等の情報	お試し移住体験のできる機会	就職や就農などの情報 / 買い物や医療、教育などの生活情報		集落の慣習やルールに関する情報
		56.8%	31.7%	28.6%	26.1%
女性 (N=134)	買い物や医療、教育などの生活情報	空き家や宅地等の情報	就職や就農などの情報	集落の慣習やルールに関する情報 / 空き家の改修整備への補助、融資制度	
		47.8%	38.8%	29.9%	

【性・年代別】

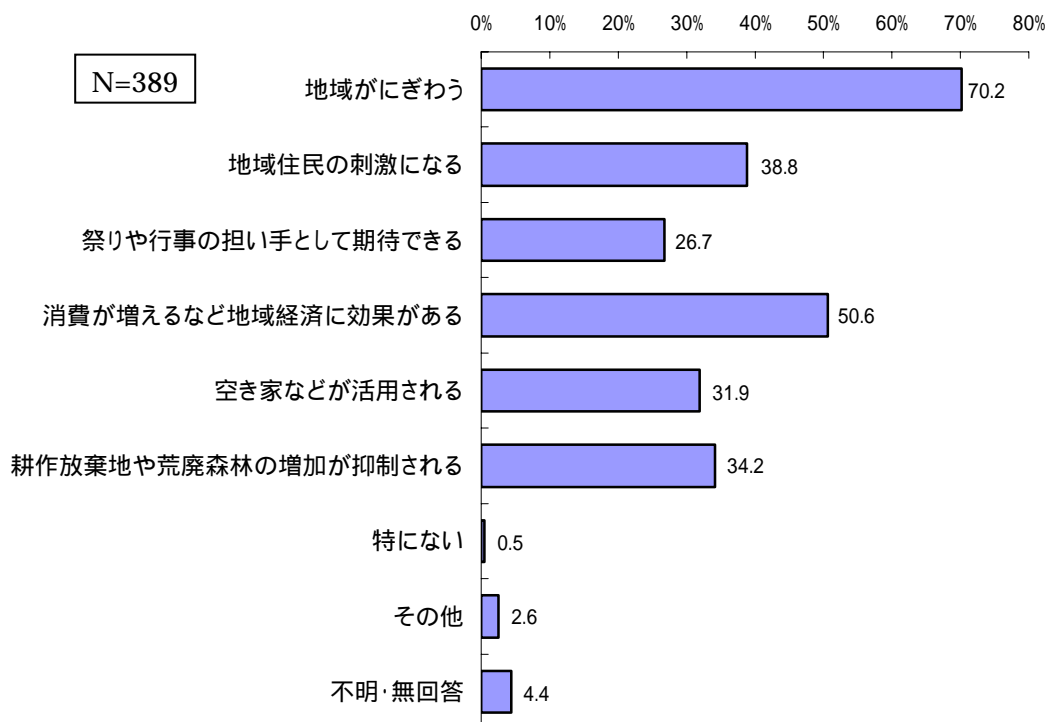
「空き家や宅地等の情報」は男性の50歳代以上で6割を超えており、最も多くなっている。「買い物や医療、教育などの生活情報」は女性の20歳代と40歳代で多くなっている。

都市住民に地方への移住を希望する理由

付問3 問32で「3 農山村などの地方部に住んでいるが、都市住民が地方へ移住してほしい」と回答された方におたずねします。都市住民が移住してほしいと思う理由は何ですか。この中から3つまで選んでください。

都市住民が移住してほしいと思う理由は、「地域がにぎわう」が70.2%

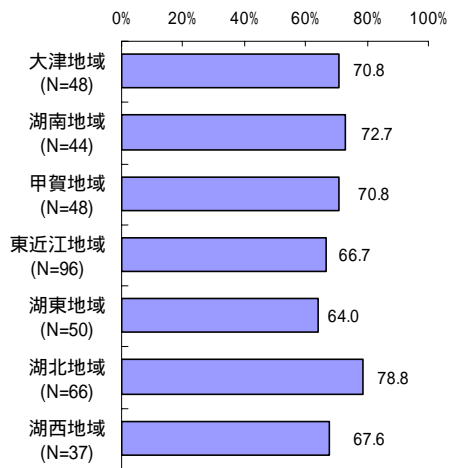
都市住民が移住してほしいと思う理由は、「地域がにぎわう」が最も多く70.2%、次いで「消費が増えるなど地域経済に効果がある」が50.6%、「地域住民の刺激になる」が38.8%となっている。



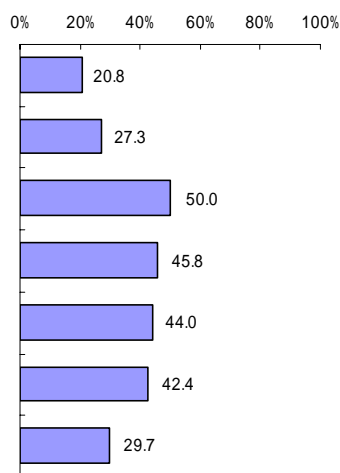
【地域別】

湖西地域を除くすべての地域で「地域がにぎわう」が、湖西地域では「消費が増えるなど地域経済に効果がある」が最も多くなっている。また、大津地域では「耕作放棄地や荒廃森林の増加が抑制される」が、湖南・湖東地域では「祭りや行事の担い手として期待できる」が他の地域に比べて割合が高くなっている。

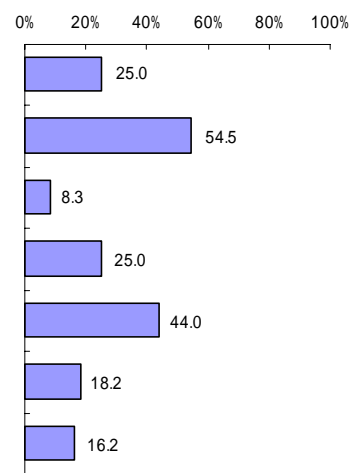
地域がにぎわう



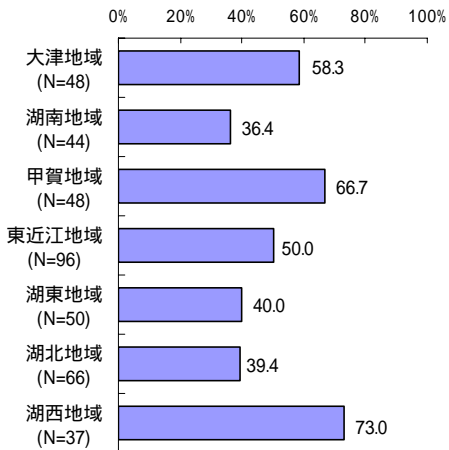
地域住民の刺激になる



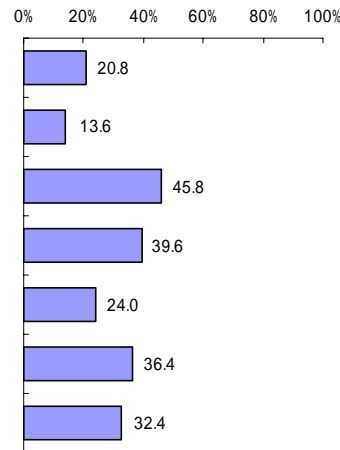
祭りや行事の担い手として期待できる



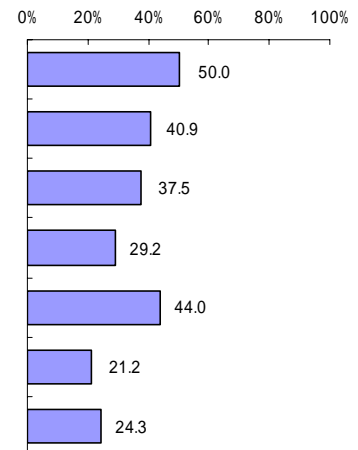
消費が増えるなど地域経済に効果がある



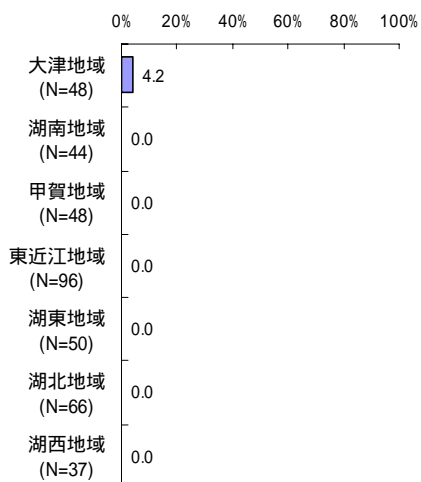
空き家などが活用される



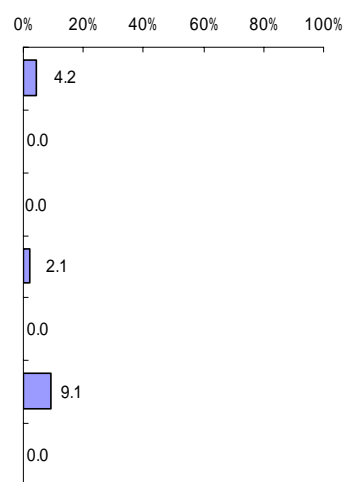
耕作放棄地や荒廃森林の増加が抑制される



特にない

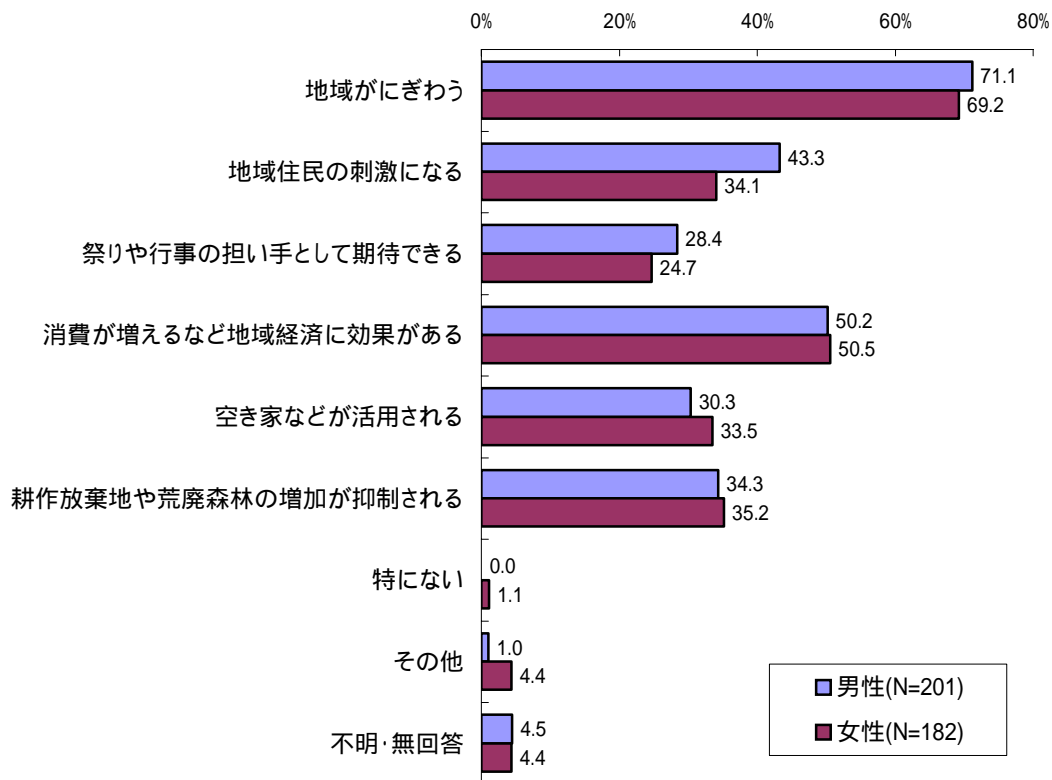


その他



【性別】

男女ともに「地域がにぎわう」が約7割で最も多く、次いで「消費が増えるなど地域経済に効果がある」が約5割となっている。以下、男性は「地域住民の刺激になる」(43.3%)、女性は「耕作放棄や荒廃森林の増加が抑制される」(35.2%)の順となっている。



【性・年代別】

男性のすべての年代と女性の20～60歳代では「地域がにぎわう」が、女性の70歳以上では「消費が増えるなど地域経済に効果がある」が最も多くなっている。